

## 立候補の抱負

この度、日本内分泌病理学会からの御推薦を受け、第92回(2019年度)日本内分泌学会学術総会会長に立候補させていただくことになりました。学術総会のメインテーマとしましては、「チーム医療における内分泌代謝疾患」と「世界に発する内分泌代謝学の研究」の2つを掲げました。この2つのテーマの下で、多くの領域の日本内分泌学会会員の皆様に満足していただける学術総会を開催し、本邦における内分泌代謝学の更なる発展を目指したいと考えております。

ところで近年の医療環境では横断的なチーム/集学的医療が重視されております。このような中では、内分泌臓器そのものの疾患と、そこから分泌され全身に影響を及ぼすホルモン異常に精通する内分泌専門医の知識が種々の疾患管理にも欠かせません。加えて精巣/卵巣等の生殖器由来の内分泌代謝疾患につきましても、益々その臨床的重要性が増加してきております。特に内分泌病理学はこのような広範な領域を対象とします内分泌代謝学の中で益々重要な役割を果たすものと信じております。そこで第92回学術総会では、種々の領域で内分泌代謝疾患の診断と治療に興味がある人達が、以前の学術総会のようにともすれば細分化された専門領域を超えて熱くホルモンを語れる雰囲気を作り、次の世代に引き継いでいければと考えております。更に内分泌代謝疾患のCPCもより充実して行います事を考えております。私は病理学と言ういわば横断的な学問領域に従事し、全診療科を対象とする中央診療部門である病理部の診療/運営に20年近く関わって参りました者として、その経験を活かし専門は異なりますが内分泌学への思いは同じ同好の志が所属や年齢を忘れて語れる場を仙台で作れればと切に希望しております。

私は現在内分泌代謝学関連の3つの国際誌(Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology IF:3.628, Neuroendocrinology IF:4.373, Endocrine Related Cancer IF:4.805)にAssociate Editorとして日々の編集に関与しております。又米国内分泌学会(The Endocrine Society)でも1994年から各種委員会委員を勤め、2010年から3年間は本邦から唯一のAMSC(年次学術集会プログラム委員、2016年からは刊行委員会委員)として学術集会プログラムの編成他米国内分泌学会の運営に関わって参りました。同時にアジア・オセアニア内分泌学会を通しまして、韓国、ASEAN諸国や豪州内分泌学会等で幾多の特別/教育講演を重ねて幾つかの学会賞を受賞して参りました。そこで今回これらの私の今までの経験を活かし、最近アジアの中でも相対的比重が低下してきました日本発の内分泌代謝学の研究を少しでも活性化する為に、海外の若手内分泌代謝研究者を招き、日本の若手研究者がすべて英語で発表/討議を行うEnglish sessionを計画しております。これらの海外の若手研究者との関わりを通し、本邦の若手の内分泌代謝学研究者の今後の新たな共同研究の一助になればと祈願しています。

日本内分泌学会には1983年から所属し、内分泌研究者として育てていただきました。1993年には研究奨励賞を受賞し、上記のように13年に及ぶ理事活動も含め学会活動には多く参加いたしました。加えて第76回、第81回と2回プログラム委員会の委員長として学術総会の運営他に関しまして多く

の事を学ばせていただきました。この期間2011年7月には仙台で第29回内分泌代謝学セミナーを開催し、同年3月11日の東日本大震災の直後にも関わらず全国から多くの日本内分泌学会会員の皆様方に参加していただきました。会場としましては震災後レノベーションしました仙台国際会議場学会会場(最大収容人数約3000名)を予定しています。仙台市地下鉄東西線が開通し仙台駅から5分と交通のアクセスも改善しまして、多数の皆様方をお迎えすることができます。

以上のことから、2019年の日本内分泌学会学術総会をぜひ仙台で開催させていただき、わが国における内分泌学の発展に貢献することができれば光栄に存じます。内分泌病理学会会員の先生方の温かいご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。